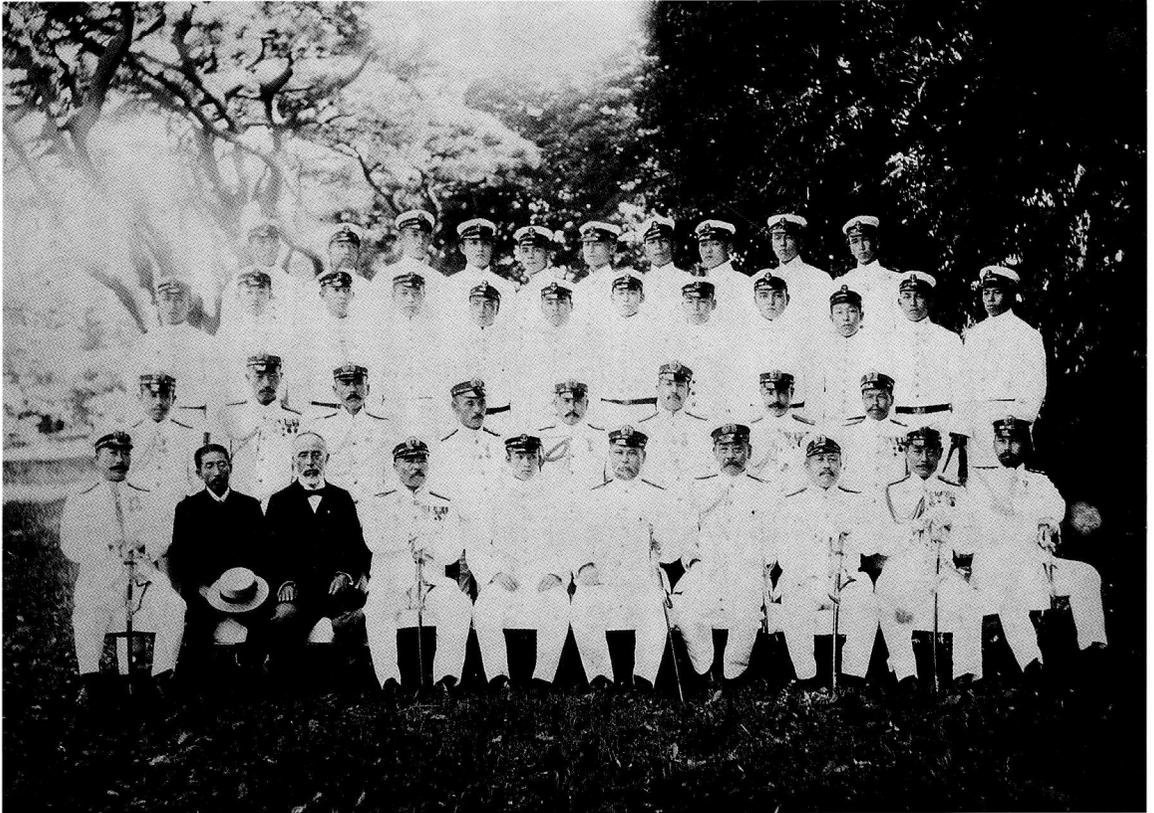


沼津市

# 明治史料館通信

2010. 1. 25 (季刊 年 4 回発行) Vol. 25 No. 4 通巻第100号



荒川重平と海軍将校たち (瓜生節子氏所蔵)  
前列左から3人目荒川重平、6人目山本権兵衛

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の主人公、秋山好古・真之兄弟のように、兄弟それぞれが陸海の軍人となり、後に日清・日露戦争を戦ったペアは、沼津兵学校出身者の中にも見いだすことができる。

加藤泰久(沼津兵学校資業生・陸軍少将)と加藤定吉(沼津兵学校附属小学校生徒・海軍大将)、永嶺源吉(同資業生・陸軍砲兵大佐)と永嶺謙光(沼津兵学校附属小学校生徒・海軍機関少将)、という二組の兄弟である。彼らは秋山兄弟より少しだけ年長だが、ほぼ同時代人である。片方は兵学校とは無関係だが、山口勝(沼津兵学校附属小学校生徒・陸軍中将)と山口鋭(東沢田村の小学校敬身舎生徒・海軍中将)という兄弟も

シリーズ  
沼津兵学校とその人材

沼津兵学校出身者の  
日露戦争

「坂の上の雲」  
を指した人々

88



加藤泰久

〔東京朝日新聞〕明治39年3月7日



日露戦争中の軍艦春日内の加藤定吉  
(山本美穂子氏寄贈)

いた。山口銳は秋山真之と海軍兵学校の同期であり、『坂の上の雲』の作中にも登場する。窮乏する士族の子弟にとって官費で勉学できる軍人は、選びやすい進路であった。まして、沼津兵学校で学んだ前歴は新政府の軍人へほぼ直結した。

秋山真之と直接的な関わりを有した人物として、沼津兵学校卒業生から海軍兵学寮（後海軍兵学校・大学校）に出仕し、長く数学

教官をつとめた荒川重平がいる。

荒川が書き残した回想録（荒川鐵太郎氏所蔵・当館保管）には、以下のような記述が見られる。日本軍が二〇三高地占領にともなう旅順港砲撃によりロシア艦隊をほぼ壊滅させた際には、絵葉書に祝いの漢詩を記して「秋山参謀」を含む知り合いの出征軍人三十数名に送った（明治三十七年一二月条）。

「司令長官、各司令官へハ秋山参謀ヨリ然ルベク言上セラレタシト申送ル」ともあり、秋山真之を通じて東郷平八郎ら司令官たちへも祝意を伝えたらしい。また、日本海海戦勝利の報に接しては、「殊勲偉功ノ人才ハ余ガ教エ子多分、国家ノ為メハ勿論私情ニ於テモ殊ニ嬉シ」と記されている（明治三十八年五月条）。教え子たちの活躍ぶりを称賛するとともに自らも誇りとしたのである。

明治四〇年（一九〇七）

退官に際し荒川は、東郷平八郎・山本権兵衛以下五七〇余名に及ぶ海軍士官

たちから、謝恩の記念品として銀製の花瓶・茶器を贈呈された。彼の履歴を、「栄光」の海軍の陰の功労者として紹介した雑誌『教育界』第七卷第四号（明治四一年二月）の記事には、「当代に於ける日本海軍の中樞に坐せる者で、一人と雖も、荒川君の教へを受けない者はないと言て良い位みである」と記されている。

坂を登り詰めれば、空に浮かぶ雲（欧米列強並の近代国家）に手が届くと思ひ、ひたすら歩み続けたのが、近代日本であったとすれば、自己と国家の目的とを同一化しその坂道を歩んだ人々は無数に存在した。沼津兵学校の人材もそうである。

日清戦争の時とは違い、日露戦争では、世代的にすでに退役した

者が多かった沼津兵学校出身軍人であるが、資養生出身の古川宣督（陸軍少将）は予備役から召集され、第四軍工兵部長として出征した。一

方、附属小学校の出身者はまだ若く、満州軍総司令部参謀をつとめた井口省吾は別格として、太田栄次郎（歩兵第四十五連隊長）、深谷又三郎（近衛歩兵第二連隊長）、神谷景昌（近衛後備歩兵第一連隊長）らのように、野戦に出た者もいた。

明治三十九年（一九〇六）四月一五日、旧幕臣の親睦団体・同方会は凱旋軍人の歓迎祝賀会を東京上野の精養軒で開催した。賓客として迎えられた出征軍人の中には堤永類陸軍三等主計正（資養生出身）、加藤定吉海軍大佐の二人の沼津兵学校出身者が含まれた。迎えた側には、川口嘉・成瀬隆蔵・島田三郎らがあり、島田は祝辞を述べている（『同方会誌』30）。

（樋口雄彦）



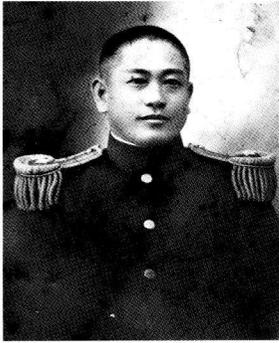
永嶺源吉・謙光兄弟  
(永嶺年子氏所蔵)  
左が源吉、右が謙光

## 東洋一の鉄橋を作った飯田豊二

ぬまづ近代史点描 ⑦

飯田豊二は明治七年（一八七四）十月十三日、飯田弘の二男として生まれた。

飯田家は、三代目飯田彦兵衛から徳川家に仕え、維新に際して沼津に移住した旧幕臣で、豊二の祖父・咸三郎（文政五年カ）明治五年）は八代目、沼津兵学校の軍事掛付出役であった（沼津御役人附）。『駿遠へ移住した徳川家臣団』第二編によれば、旧幕時代は勘定方、維新の際に初め駿府鷹匠町に移り、明治二年軍事掛付出役に任じられて高田村（現沼津市大岡）の農家宅に寄留した。後、中原（現沼津市中原町）に転居、十七年頃、城内百五十二番地（現沼



飯田豊二  
（飯田慎一氏所蔵）

津市添地町か）に移った。豊二の父・弘（弘化四年（一八四七））明治四三年）は、沼津に移住後、城内町戸長、教師、裁判所書記などを務めた。母・みつ（安政元年（一八五四））昭和一四年）は、沼津勤番組二番類頭取吉田泰門の娘であった。母方の従弟に三省堂社長になった神保周蔵（沼津移住旧幕臣神保長久の子）がいる。

豊二の沼津時代の略歴は明らかではないが、四歳上の兄・耕一郎が沼津兵学校附属小学校の後身である集成舎に学んだことから、恐らくはその後身である小学沼津学校（沼津豊）に学んだものと思われる。その後、工手学校（工学院大学の前身）に学び、卒業後、兄と同じ鉄道局に就職した。

日清戦争後の下関条約によって台湾が日本の領有となった後の明治二十九年三月、耕一郎は台湾で線路の実測に従事し、二、三ヶ月で帰ってきた。その後、再度台湾行きの内命があったが、同時に豊二にも同じ命令があった。当局が、兄弟一緒に台湾に行くのは気の毒なのでどちらかにせよ、とのこととなり、兄は一度行っているから、といって豊二が自ら赴任した。

三〇年、二八歳で渡台した後、後に台湾鉄道建設最大の功労者といわれる小山保政（三二年没）の下、鉄道技術を学んだ。三五年、暢（成島柳北の娘）と結婚。四三年、台湾総督府鉄道技師に任じられ、大正元年（一九一二）五月、高雄の打狗出張所工務掛兼打狗出張所九曲堂派出所主任となり、台湾で流域面積最大の河川である下淡水溪（現高屏溪。高雄県と屏東県の境界となっている）の打狗

阿猴間の架橋工事主任となった。大正二年六月七日、難工事に  
よる過労のう  
え、赤痢に罹  
り、十二月の橋  
の完成を目前に

逝去した。享年四〇歳であった。全長一五二六メートルの鉄橋は当時、阿賀野川や天竜川、朝鮮の鴨緑江の鉄橋よりも長く東洋一を誇った。二四連のトラスが並ぶその様子は、世界の鉄道技術者を感じさせるに十分なものであったという。

完工後、小山保政の子で、豊二の部下であった三郎ら有志によって、鉄橋に近い九曲堂駅の構内に記念碑が建立された。地域の人々の尽力によって第二次大戦後も破壊を免れ、現在は碑の周囲が整備され飯田豊二小公園となり、役目を終えた鉄橋とともに歴史遺産となっている。

〈参考文献〉飯田意誠編『飯田耕一郎之面影』一九三七年、片倉佳史『台湾に生きている「日本」』祥伝社・二〇〇九年



飯田豊二記念碑  
（飯田慎一氏所蔵）

台座に嵌めこまれた銅製プレートに豊二の生涯、事跡が記されている。

お知らせ欄

◎特別展「沼津兵学校のすべて」好評開催中!

好評開催中!

昭和59年の開館以来、主要テーマとしてきた沼津兵学校の特別展を開催しています。開館以来絶え間なく継続してきた兵学校研究の集大成を目指し、昭和61年の企画展「沼津兵学校」、平成6年の企画展「沼津兵学校の群像」以降に発見された資料や、写真でしか公開されていなかった資料など、初公開の資料を多数展示しています。3月28日(日)までです。お見逃しなく!!

また、3月20日(土)午前11時から、ギャラリートークを開催します。展示室で実際の資料をご覧いただきますながら、学芸員が解説します。ご来場お待ちしております。

◎待望の図録

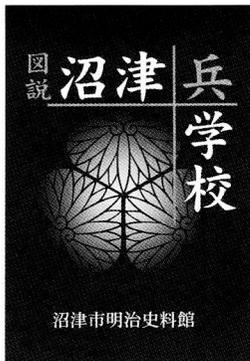
「図説 沼津兵学校」刊行!

特別展「沼津兵学校のすべて」にあわせて図録を刊行しました。

沼津兵学校研究の大家である樋口雄彦氏(国立歴史民俗博物館准教授・元当館主任学芸員)が監修



頒布価格 1,000円



し、B5版からA4版にサイズアップし、全96ページの半分以上がカラーページになっています。資料・人物の写真を多数収録し、「図説」という名の通り、沼津兵学校のことが目で見えてわかる図録になっています。兵学校関係人物の写真も、これまでに掲載したことのあるおなじみの写真ではなく、なるべく新発見の写真を掲載しました。新しくなった図録を是非ご覧ください。

沼津市明治史料館

# 歴史講演会

平成22年2月20日(土)

「兵学校は沼津に何を遺したか」  
四方一弥氏

【主な著書】  
『皇朝教育史』(皇朝教育委員会 1972) 54  
『沼津海軍幼年学校』(沼津海軍幼年学校 1981)  
『日本教育史料』の増刊『沼津』(沼津市教育委員会 1986)  
『沼津の歴史』(沼津市教育委員会 1986)  
『沼津の歴史』(沼津市教育委員会 1986)  
『沼津の歴史』(沼津市教育委員会 1986)  
『沼津の歴史』(沼津市教育委員会 1986)

「沼津兵学校の人々  
—海軍総裁から伊賀忍者の末裔まで」  
植松三十里氏

【主な著書】  
『大東亜戦争』(PHP文庫 2008)  
『大東亜戦争』(双葉文庫 2008)  
『大東亜戦争』(双葉文庫 2008)  
『大東亜戦争』(双葉文庫 2008)  
『大東亜戦争』(双葉文庫 2008)

会場 サンウエルぬまづ (日の出町)  
4階多目的ホール  
駐車場 500台(1000円) (利用料は別途2000円) (利用料は別途2000円)

時間 13時30分～(開場 13時)

詳しくは、沼津市明治史料館 電話 055-923-3335 まで

特別展 沼津兵学校のすべて 開催中

ご来場お待ちしております。

◎歴史講演会を開催します  
沼津兵学校のことを、もっと身近に理解していただけるように歴史講演会を開催します。  
沼津市出身で沼津市史編さん委員を務め、教育史を専門とする四方一弥氏と、静岡県出身で、静岡新聞夕刊に「美貌の功罪」を連載中の歴史時代小説家・植松三十里氏を講師にお招きし、沼津兵学校についてお話しいただきます。  
入場は無料です。お申込みも不要ですので、当日直接会場へお越しください。なお、駐車場には限りがありますので、公共交通機関

沼津市明治史料館通信 第100号  
編集 沼津市明治史料館  
発行 沼津市明治史料館  
〒410-0851 沼津市西熊堂三七二-1  
電話 〇五五-九二三-三三三三  
FAX 〇五五-九二一-三〇一八  
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisecu/meiji/index.htm

等のご利用をお願いいたします。  
日時 平成22年2月20日(土)  
開場 午後1時  
開演 午後1時30分  
会場 サンウエルぬまづ (ぬまづ健康福祉プラザ)  
4階多目的ホール  
沼津市日の出町1-15